

第61回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■大阪府知事賞部門	大阪府知事賞	今井町の家	横関正人・横関万貴子
		つつじヶ丘の家	柳川賢次
	特別賞	ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター	児玉 謙
■渡辺節賞部門	奨励賞	西三国の家	堤 庸策

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2012年1月1日から2016年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
完了検査済証発行日現在39歳以下

審査委員会

委員長 遠藤秀平 (神戸大学大学院教授)

委員 越智正一
※50音順 (前大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長 現)

阪田弘一 (京都工芸繊維大学准教授)

下山 聡 (下山建築設計室)

鉾井修一 (京大名誉教授)

審査

応募数 大阪府知事賞部門 27点

渡辺節賞部門 16点

審査委員会 3回

●第1次審査

2月20日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門7点、渡辺節賞部門3点を選考

●第2次審査

3月14日、30日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

●最終審査

3月30日 第2次審査終了後に実施
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点、特別賞1点、渡辺節賞部門：奨励賞1点を選出

表彰式

とき 平成29年5月25日(木)

本会定時総会式典席上

会場 ホテル大阪ベイタワー・4階

審査経過並びに総評



審査委員長
遠藤 秀平

大阪建築コンクールの61回目の新たなスタートの審査に立ち会う事になった。思い起こせば45回の渡辺節賞を受賞したのが25年前になる、審査委員は何度か努めたが審査委員長となると荷が重い。最初はどのような審査になるか予想もできなかったが、審査委員のみなさんがそれぞれの立場で貴重な意見を出していただき、スムーズな合議で結論に

至ったのではないと思う。

今回は知事賞部門に27作・渡辺節賞部門に16作の応募が有り、まずは書類による1次審査を行なった。審査員全員そろい自己紹介のあと、評価の基準について意見交換を行い、事務局にもこれまでの審査を確認しながら準備を整えた。その後は各自が提出されたファイルを見て回り、その中から現地審査の候補となる2~3作を選んでもらうことにした。その後、審査員全員から推薦候補作を出してもらい、それぞれについて各自がコメント行なった。途上評価する点と気になった点を話題として、再度推薦の意思を確認し絞り込みを繰り返して行なった。また、これらの途上では各作品の設計者名は非公開であった、後日談であるがこのために節賞候補には同一設計者の作品が2つ

入っていることに皆が驚かされた。

1次審査で節賞候補3作・知事賞候補7作を選定し、全審査員が参加し2日間で10作について現地審査を行った。現地審査2日目の最後に建築士会事務局に戻り最終審査会を行った。まず各自が知事賞候補と節賞候補を1作ずつ推薦し、意見分布を確認した上で議論と絞り込みを行うことにした。最初に知事賞候補作の絞り込みを行い、まず「今井町の家」の伝統的な町家に対する地道な取り組みが全員の評価を受け決定となった。また、この時点では複数の候補が残っていたが意見がまとまらないため先に節賞の選定を行うこととした。節賞候補3作から、積極的閉鎖による住環境を実現した「西三国の家」のチャレンジ性に評価が集まったが、コンセプトと構造との整合

性に曖昧さが残っていることなどから奨励賞とすることが決定した。その後、残された知事賞候補に議論を戻し、やや閉鎖的な住宅地において周辺に対する敷地の開放などを評価し「つつじヶ丘の家」を受賞作とした。最後に室内空気環境のコントロールをテーマとしての高い取り組みを評価して「ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター」を特別賞として選出した。

以下、受賞作への講評は各審査員のコメントに譲り、受賞にいたらなかった現地審査作品をコメントしたい。

○大阪府知事賞

「有縁のすみか」

現地審査では、設計者の運営企画への積極的な関与が読み取れ、持続的な取り組みにより社会的に閉鎖しがちなプログラムを開放する提案が実現されたことが確認できた。地域や既存施設との関係をよく読み解いた力作ではあるが、木架構への工夫やチャレンジなどもう1歩踏み込んだ建築提案が求められる。

「仁川の住宅」

郊外の住宅地に建つ個性的なファサードの住宅であるが、内部は大きな吹き抜け空間を中心に家族の居場所が設定される魅力的な空間を持っている。しかし、個性的であるファサードの表情とその意義に関して、設計者が託した目的ほどには達成されていないのではないかと、まして木造による架構に整合性があるのかが

気になる場所であった。

「浄土真宗本願寺派西光寺」

大阪の最も賑やかな一角に立地するお寺の再建であるが、猥雑な環境との接点をコンクリートボックスと敷地の両側に設定した長い内部通路によりうまく調停を行っている秀作である。しかし、周辺の雑音からの遮蔽を強くしたためか、やや閉鎖的で内向な印象を拭えない。安定した環境は発注者側の条件は大きな前提であろうが、宗教がもてる非日常性を信徒以外でも享受できる場所に宗教建築の魅力が生まれるのではないだろうか。

「祇園末吉町ビル」

夜に魅力を発揮することを求められる建築であろうが、伝統的すだれをステンレスの網によって現代的な表情を獲得している、新たな可能性を具体化した労作である。審査では日中の確認となったが夜間の照明による魅力は十分に理解できるものであった。しかし、設計者の熱心な取り組みが内部空間とは切りはなされていたことがやや残念であった。

○渡辺節賞

「鳳の家」

比較的新しい住宅街の角地に立地する小住宅である。現地審査では西三国の家と同じ設計者が出迎えてくれた、コンセプトには共通するものを見ていたが審査員一同が驚いた。残念なことに住人との調整ができず内部を体験することができな

かった。

「八田家住宅」

若い陶芸家の仕事場と家族の住まいである。外観は伝統的な瓦屋根に木造軸組により安定した景観の形成に貴重な役割を果たしていた。空間はアドルフ・ロースのラウムプランを彷彿させる立体的な回遊性のある豊かな空間を感じることができた。斜面に立地することからも、仕事場の床下には大きな東立空間が出来ていたが、この部分がより積極的に生活の一部に取り込まれてもよかったのではないかと。

最後に最近気になっている事を記しておきたい。建築設計や建築の質を高める事は重要なことであるが、その一環として様々な分野においてデザインビルドやBIMなどが関心を集めている。しかし、これらは共に建築を具体化するための方法の1つであり、方法が目的化し本来の目的である質とは何かを忘れては問題である。今回の審査においても、多くの設計者による様々な取り組みの成果を知る事が出来たととても参考になった。ひとり一人の設計者が建築の質を高める事を忘れずに、そして多くの人々が建築の魅力を感じられるようにしたい。新潟の旧家で見えた東山魁夷さんの色紙にあったことばを記して終わる。「古い家のない町は 想いでの無い人間と同じである」、長らく使われ記憶に残る建築が多く作られることを願う。

審査風景



■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 今井町の家

設計者 横関正人・横関万貴子（一級建築士事務所 有限会社 NEO GEO）



建築位置／奈良県橿原市 構造／木造伝統工法＋ 延床面積／169.69㎡
 建物用途／戸建住宅 耐震補強 フレーム
 建築主／田原勝則・田原幸子 階数／地上2階
 施工者／株式会社岩鶴工務店 敷地面積／255.58㎡
 竣工年月／2013年3月 建築面積／133.36㎡ 撮影 絹巻 豊



横関正人
 1962年生まれ
 1980年 福井工業大学工学部建設工学科入学
 1984年 福井工業大学工学部建設工学科卒業
 1984年 (有)コンコード建築設計事務所入社
 1991年 横関正人建築研究所設立
 1994年 (有)NEO GEO設立 代表
 1996年 (株)まちづくりワークショップ共同設立

1998年 横関正人／(有)NEO GEO 代表 現在に至る

〔主な建築作品と受賞歴〕

大野台の家／第5回リフォーム・リノベーションコンクール 大阪府知事賞
 今井町の家／平成28年日本建築士会連合会賞 奨励賞
 富田林じないまち 木くま館／第35回大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞) 奨励賞
 ナサホーム本社／梅田リフォームスタジオ
 パイロシステムガラス防火区画デザイン・コンペ 準優秀賞
 路地のある寺内町の家／第4回建築人賞 奨励賞



横関万貴子
 1964年生まれ
 1990年 大阪芸術大学芸術学部建築学科入学
 1994年 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業
 2001年 三木万貴子建築設計室設立
 2001年～ (有)NEO GEO
 2012年 京都大学農学研究科森林科学卒業
 同博士課程後期在学中
 (生存圏研究室 生活圏 構造機能分野)

〔主な建築作品と受賞歴〕

横関正人と同じ

〈審査講評〉築200年を経過した民家の、耐震補強を伴う改修工事である。既存架構がもつ特性にあわせ、必要以上に剛性を高めることより靱性の向上に主眼を置いている。実大実験により性能が確認された補強フレームは、木のめりこみに期待した格子壁であり、上下境界梁の曲げ戻し効果も活かし、より粘りを高める設計となっている。バランスよく配置された格子補強フレームを積極的に現し、意匠的にも調和させている点が評価された。（審査委員 下山 聡）

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 つつじヶ丘の家

設計者 柳川賢次（有限会社柳川賢次建築設計事務所）



建築位置／兵庫県神戸市
 建物用途／戸建住宅
 建築主／岸本 真・岸本芽子
 施工者／株式会社フナビキ工務店
 竣工年月／2013年11月
 構造／鉄筋コンクリート造＋
 木造併用混構造
 階数／地上2階
 敷地面積／198.23㎡
 建築面積／92.40㎡
 延床面積／133.17㎡

撮影 浅田美浩



柳川賢次
 1954年生まれ
 1973年4月 大阪工業大学工学部建築
 学科入学
 1977年3月 大阪工業大学工学部建築
 学科卒業
 1977年4月～1978年3月
 大阪工業大学工学部建築学科研究生

1977年4月 瀧光夫建築・都市設計事務所入社
 1983年3月 瀧光夫建築・都市設計事務所退社
 1983年10月 一級建築士事務所 柳川賢次建築設計事務所
 開設

1988年4月 (有)柳川賢次建築設計事務所に商号変更
 現在に至る

〔主な建築作品と受賞歴〕

1992年「神戸・狩口地域センター設計競技」
 最優秀賞

1995年「神戸・狩口地域センター」
 第10回日本建築士連合会賞 奨励賞

1996年「神戸神仏閣」

1999年「ふるさとの木で住宅を」
 おおさか型モデル展示住宅設計コンペ 最優秀賞

2006年「ツリーハウス」

American Wood Design Awards 2006 優秀賞

2009年「舞多間の家 a-1」

日本建築家協会優秀建築選

2011年「地 chicken BAR ひなのや」

第1回神戸市都市デザイン賞 景観ポイント賞

〈審査講評〉モダニズムに則った完成度の高い室内外空間。更に注目すべきはその建ち方にある。敷地を含む一角はひな壇型で、北側道路、南側道路を挟んで向かいの敷地とは共に3m程の高低差があり、南側道路沿いには片側に擁壁、片側に住宅が連なる閉鎖的街並みが続く。この住宅は文字通りその街並みに風穴を開ける。キャンチレバーの浮遊感も相まって、南北を貫くアプローチは近隣住民のアクティビティに開かれていく公共的価値を感じさせる。（審査委員 阪田弘一）

大阪府知事賞部門 特別賞 ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター

設計者 児玉 謙 (株式会社日建設計)



撮影 清水向山

建築位置／大阪府摂津市
 建物用途／研究所・事務所
 建築主／ダイキン工業株式会社
 施工者／株式会社竹中工務店
 竣工年月／2015年11月

構造／鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
 階数／地上6階・地下1階・PH2階
 敷地面積／396,666.66㎡
 建築面積／11,839.01㎡
 延床面積／47,911.86㎡

〈審査講評〉3ヶ所に分かれていた700名の技術者のための研究所である。イノベーションを誘発するため、2層のオフィスフロアの中央、中間に、異なる部門の研究者がいつでも集まれるオープンステージを配置した。オフィスワーカーの生産性向上のためには、喫煙所のような気分転換やコミュニケーションのためのスペースが必要とされているが、この「ワイガヤステージ」は、そうした執務空間のあり方に対する明快で発展性のある提案として評価された。
 (審査委員 越智正一)



児玉 謙
 1963年生まれ
 1982年4月 京都大学工学部建築学科入学
 1986年3月 京都大学工学部建築学科卒業
 1986年4月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程
 1988年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了

1988年4月 株式会社日建設計入社
 2005年1月 株式会社日建設計 設計室長
 2009年1月 株式会社日建設計 設計部門副代表・設計部長
 2009年4月 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科非常勤講師
 2015年1月 株式会社日建設計 執行役員設計部門代表 現在に至る
 [主な建築作品と受賞歴]
 2003年3月 オムロン京阪奈イノベーションセンター
 日本建築学会作品選集2005、第1回日本建築家協会優秀建築選
 2004年9月 神戸栄光教会
 日本建築学会作品選集2007、第31回日事連建築賞、第7回人間サイズのまちづくり賞、第9回神戸市建築文化賞、第19回神戸景観ポイント賞
 2007年12月 INAX大阪ビル(現日本ビラー工業)
 日本建築学会作品選集2010、第4回日本建築家協会優秀建築選、第29回大阪都市景観建築賞
 2008年10月 ろうきん肥後橋ビル
 日本建築学会作品選集2011、第5回日本建築家協会優秀建築選、第12回JIA環境建築賞、第3回大阪サステナブル建築賞、CASBEE OF THE YEAR 大阪 2008、第30回大阪都市景観建築賞
 2012年11月 新日鐵住金技術開発本部尼崎研究開発センター
 日本建築学会作品選集2015、第10回日本建築家協会優秀建築選、第9回まちかどチャタリング賞
 2015年6月 新居浜市あかがねミュージアム(新居浜市総合文化施設・新居浜市美術館)
 日本建築学会作品選集2017、2016年度日本建築家協会優秀建築選

渡辺節賞部門 奨励賞 西三国の家

設計者 堤 庸策 (arbol)



建築位置／大阪市淀川区
 建物用途／戸建住宅
 建築主／阪本 勲
 施工者／株式会社
 住まい設計工房
 竣工年月／2013年6月
 構造／木造
 階数／1階
 敷地面積／169.24㎡
 建築面積／91.70㎡
 延床面積／91.70㎡

撮影 下村康典

〈審査講評〉外からの視線とともに内から外への視線に配慮し光と風を取り入れること、それが若い建築家が意を注いだことであった。スギ板の塀にスリットを入れ、その幅を中央から左右にいくほど狭くし、角度により外の景色、光の入り具合を微妙に変化させた。開けた周辺環境の下で囲うことが最適な解だったのか、計画的にも環境工学的にも問題を提起する作品であり、このコンセプトがどのような展開を見せるか、今後が楽しみである。
 (審査委員 鈴木修一)



堤 庸策
 1979年生まれ
 1998年3月 国立阿南工業高等専門学校高等課程修了
 2002年3月 アートカレッジ神戸インテリアデザイン学科卒業
 2003年4月 田頭健司建築研究所入所
 2006年3月 フリーランス活動開始

2009年2月 arbol(アルボル)設立
 2010年2月 arbol(GREEN BLUE株式会社)に法人化
 [主な建築作品と受賞歴]
 2012年 阿倍野の家 / 2013年 西三国の家 / 2014年 風の家 / 2015年 生駒の家 / 2016年 KIITO公共施設オープン・リノベーション
 2011年 DSA日本空間デザイン協会 ディスプレイデザイン協会特別賞 地域賞
 2012年 JCDデザインアワード 金賞(共同設計:mtds 高橋真之)
 2014年 GOOD DESIGN AWARD
 2015年 総務省主催「公共施設オープン・リノベーション マッチングコンペティション」採択
 2016年 American Architecture Prize/AAP 2016(アメリカ建築賞) ARCHITECTURAL DESIGN > Small Architecture 銀賞
 2016年 American Architecture Prize/AAP 2016(アメリカ建築賞) ARCHITECTURAL DESIGN > Small Architecture 銅賞

審査風景



平成28年度 大阪建築コンクール基金出捐者リスト

前大阪府住宅まちづくり部 堤 勇二
 岡本 森廣 越智 正一 樫永 一男
 金森秀治郎 竹原 義二 中嶋 節子
 長谷川 総一 都築業株式会社 河原 輝雄
 森田一弥建築設計事務所
 瀧 梢 (50音順 敬称略)

大変ありがとうございました。
 本コンクールの募集・審査・表彰・講演会等の運営に充てさせていただきます。
 (公益社団法人大阪府建築士会建築表彰委員会)